

ふるさと深谷

校長 石原 加代子

長かった夏休みが終わり、子どもたちの「おはようございます」という挨拶に思わず嬉しくなります。熱中症や感染症の予防とともに、学校生活のリズムを徐々に取り戻すように子どもたちの精神面や健康面に配慮しながら支援していきます。

さて、7月22日に45年目の「深谷小学校区盆踊り大会」が盛大に開催されました。この夏祭りは、深谷小学校区盆踊り実行委員会の皆様が主催してきたものです。この2年間はコロナ禍のために中止を余儀なくされ、久しぶりの開催でしたが、実行委員の皆様は阿吽の呼吸で見事な櫓を完成させました。教職員は当日の準備や片付けを一緒に行いながら、発足当時の思いや様子をお聞きし、長い歴史を感じました。

深谷小学校区盆踊り実行委員会は、深谷小学校施設利用運営委員会を母体として発足しました。委員長の照井さんは、「子どもたちや住民の『ふるさと』となるような行事をつくりたい。」「地域と学校をつなげ、健全育成の一端を担いたい。」という願いをもって、45年もの間、続けてきたそうです。祭りの中心にそびえる櫓の図面を起こした方、骨組みを半年かけて溶接して制作した方、多くの協力者。みんなができることを少しずつ積み重ねながら祭りをつくっていったとのことでした。

今回は飲食をせずに感染症対策をした上で、一夜のみの実施となりました。和太鼓クラブの子どもたちは大勢の前で演奏する機会をいただき、休み時間に練習してきた成果を発揮し、緊張しながらも達成感を味わうことができました。食べ物の売店がなくても、たくさん子どもたち・卒業生や地域の皆様が参加し、笑顔があふれていました。校庭のあちらこちらで同窓会が開かれ、温かいぬくもりに包まれ、深谷のまちのつながりを感じました。懐かしい卒業生や地域の方々に会うことができ、教職員にとっても大切な時間でした。早い時期から盆踊り実行委員会の皆様が準備をして、この日を迎え、PTA役員の方々も子どもたちが安全に楽しめる企画をしてくださいました。盆踊り実行委員には元PTA会長や卒業生の保護者の皆様が何人もいらっしゃいます。これまで長きにわたりご尽力をいただき、本校を支え続けるとともに、地域と学校をつなげ、深谷のまちを愛する心を育ててくださったことに心より感謝しております。

「深谷小学校区盆踊り大会」が最後となり、非常に寂しい思いでいっぱいです。櫓を囲んで踊り、語り合った思い出は、『ふるさと深谷』として一人ひとりの心に刻まれたのではないのでしょうか。45年もの間、ありがとうございました。

本校創立50周年を記念して、深谷小学校区盆踊り実行委員会の皆様から法被を寄贈していただきました。スポーツフェスティバルで法被姿を披露するのが楽しみです。

夏祭りは終わっても、この『ふるさと深谷』で、これまで以上に地域・保護者・学校が連携して深谷のまちの子どもたちを大切に育みたいと思っています。これからも、地域の皆様・保護者の皆様の温かいご支援をお願いいたします。